

## 新年のご挨拶

先ず、この度の石川県能登半島地震におきまして、亡くなられた方のご冥福を深くお祈りいたしますとともに、被災された方々に対しまして、心からお見舞いを申し上げます。

被災地の皆様が安全を取り戻し、一日も早い復興を心からお祈りしております。

『モダンメディア』は医学、公衆衛生に関する学術情報誌として1955年8月に創刊して以来、臨床検査に関わる話題や最新情報をさまざまな視点からご提供させていただいております。現在では月間発行部数5,300部に加えてWeb配信の充実を図り、サステナビリティに対する社会要請にも応えられるよう努めております。

今後さらに読者の皆様にご満足いただけるよう、最新情報のご提供に努めて参りますので、引き続きご愛読たまわりますようお願い申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類に移行し、経済活動の正常化が進む中、ウクライナや中東の情勢、資源価格高騰など不安定な状況は継続しており、何が大切なのかを考えさせられた1年でもありました。それは正に健康、安全、安心などであり、失った時に初めて気づく「日常」なのだと思います。コロナ禍を経て、私たちはそれを取り戻すのに4年かかったわけですが、その真ん中には人と人の繋がりやコミュニケーションの大切さがあると感じております。

弊社は“Saving Your Health”[ヘルスケアを通じて人々の健康を守ります。]の経営理念のもと、「がん」、「感染症」、「ヘルスケア」の3つの分野を強化し、医療関係者の皆様にご活用いただけるよう検査システム(試薬、装置)の技術開発や製品化に取り組み、同時に製品の更なる品質向上と安定供給にも注力しております。今後ともより一層、皆様にご活用いただけるよう努力していく所存です。

さて、本誌恒例の新春放談2024年は、「発刊70年記念企画」として一般の方々を含めて社会的な関心や話題性が特に高い「ネクストパンデミックを見据えて…」をテーマに取り上げさせていただきました。

語り手として、石井健先生(東京大学医科学研究所 感染・免疫部門 ワクチン科学分野 教授)、國井修先生(公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金 GHIT Fund 代表)、佐藤佳先生(東京大学医科学研究所 感染・免疫部門 システムウイルス学分野 教授)、平田晃正先生(名古屋工業大学 先端医用物理・情報工学研究センター 教授)、本誌編集委員の松本哲哉先生(国際医療福祉大学 感染症学講座 主任教授)、聞き手は、本誌編集委員の岩田敏先生(熊本大学大学院 生命科学研究部 客員教授、東京医科大学 微生物学分野 兼任教授)にご担当いただきました。

新型コロナウイルスによるパンデミックの経験を踏まえて、新たなパンデミックの発生から100日間で診断薬、ワクチン、治療薬などの実用化を目指す「100 days Mission : 100DM」が世界で動き出しています。その中で、次の感染症危機に対して、日本の産学官関係者がどのように課題や情報を共有し、早期に診断薬、治療薬やワクチンを実用化させ社会貢献する機会を得るべく体制や関係の強化を図るべきなのか、今後の取り組みや可能性について幅広くご議論していただいておりますので、是非ご一読ください。

本年も、より一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

復興に向けて皆が一丸となって力を合わせ、希望ある未来を築けるような年になることを心より願います。

2024年1月 吉日



栄研化学株式会社

代表執行役社長

納 富 継 宣